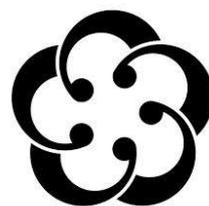


安定的な行政サービスを続けるために

今こそ、2市で考える

合併・中核市・広域連携

小田原市と南足柄市（2市）は、学識経験者・両市長・市議会議員・市民・行政職員等で構成する「（仮称）県西地域の中心市のあり方に関する2市協議会」を平成28年10月に設置し、約1年間、検討を行います。



（仮称）県西地域の中心市のあり方に関する2市協議会設置準備会
（小田原市企画部企画政策課内）

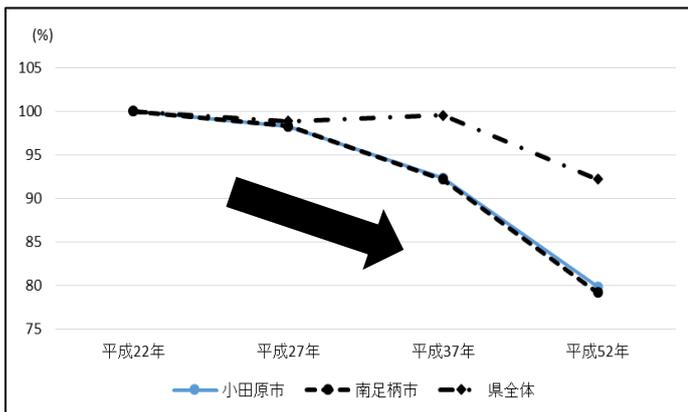
なぜ、今なのか

今までどおりの行政サービスの提供が難しくなります。

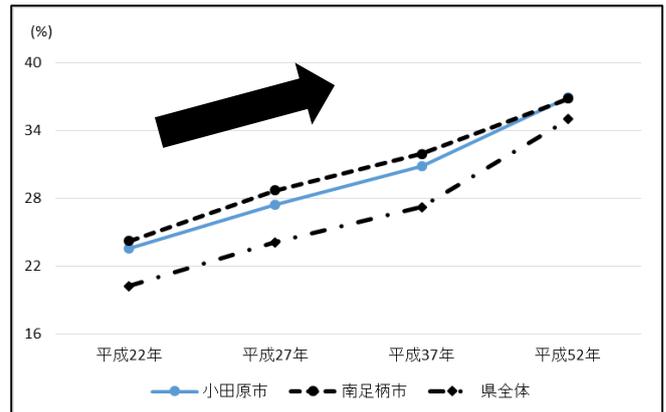
わが国ではすでに、人口減少や少子高齢化が本格化しており、自治体運営が厳しさを増しています。近年「消滅可能性都市」という言葉が話題となったように、それぞれの自治体は、いかにして安定的に行政サービスを提供し続けられるのかを改めて考え直す必要に迫られています。

これまで2市は、人口の増加とともに行政サービスの拡充を図ってきました。しかし、今後も人口減少、少子高齢化が急激に進んでいくという状況下において、これまでと同様の行政サービスを提供し続けていくことは難しくなっていきます。市民の皆さんが当たり前のようを受けてきた行政サービスが削減され、皆さんの生活が不便になってしまうことも考えられます。

2市の人口増減率（対平成22年比）

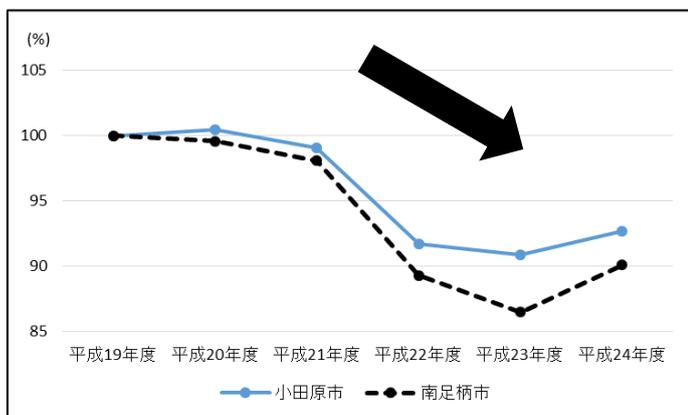


2市の高齢化率（65歳以上の割合）

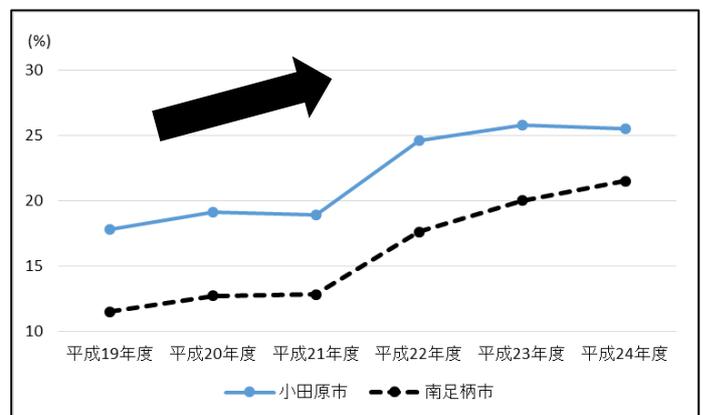


※県人口統計調査及び国立社会保障・人口問題研究所による

2市の個人市民税収入の増減率
(対平成19年度比)



歳出に占める扶助費の割合



※決算より

なぜ、2市でなのか

2市は緊密な関係にあり、課題認識を共有しています。

隣接する2市は、平野や森林地域、酒匂川など地理的な一体性を有しています。また、鉄道や幹線道路で接続されていることなどにより市街地が連続して形成されているほか、2市に居住する従業・通学者のうち、半数以上の人が2市内で従業・通学しているなど、生活圏も一体化しています。

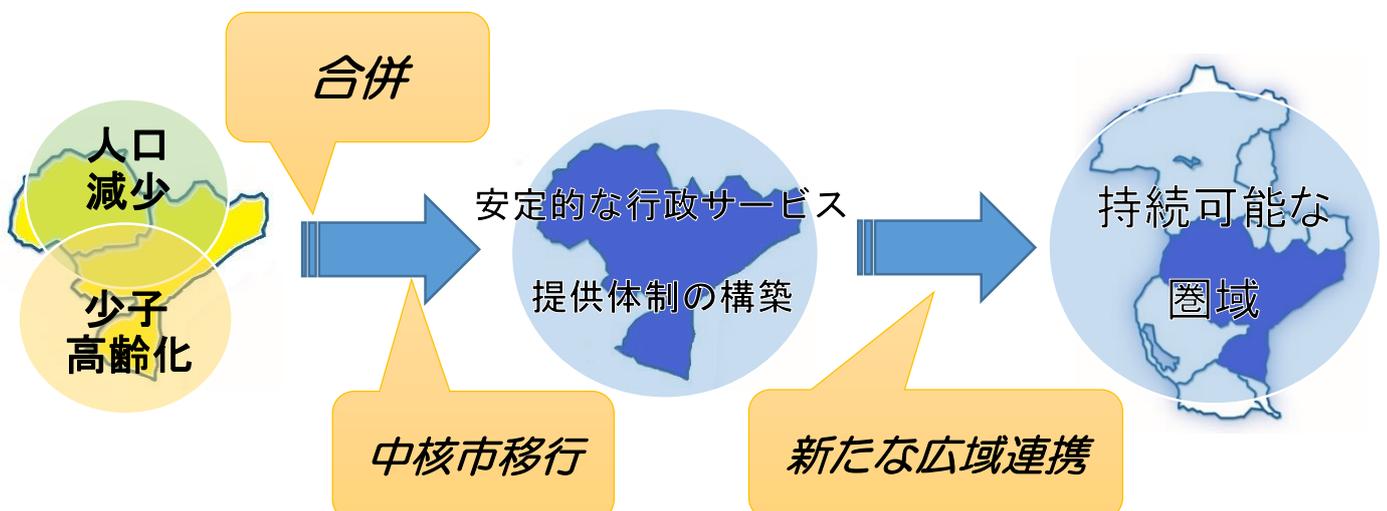
さらに2市は、これまでと同様に行政サービスを安定して提供し続けるためには、十分な「体力」と「能力」を備えた行政体制を構築することが必要であり、県西地域において人口、経済・都市機能が集中する2市の深刻な状況が、地域全体に大きく影響することについても認識を共有しています。

何を検討するのか

3つの観点から検討を実施します。

安定的な行政サービス提供体制の構築と県西地域の広域連携体制の強化によって、基礎自治体として一定の「体力」と「能力」を備えて自律的にサービスを提供し、地域の課題を自律的に解決するため、協議会では以下の項目について検討する予定です。

- 行財政基盤強化策としての合併の検討：県西地域の中心的都市として、一定の人口規模や財政基盤を備えた都市であり続けるため、2市の合併について検討します。
- 権能強化策としての大都市制度（中核市（※））の活用の検討：市民に最も身近な基礎自治体として、幅広くより高度な行政サービスを提供できるよう、中核市への移行を検討します。（※）中核市は、大都市制度の一つで、指定都市に次ぐ幅広い権限を有する。
- 中心市と周辺自治体との新たな広域連携体制の構築：県西地域の他自治体と、相互にメリットのある協力体制を検討します。





小田原市会場

日時 平成 28 年 7 月 18 日（祝） 13 時から 15 時

場所 小田原市民会館 小ホール（小田原市本町 1-5-12）

講師 佐々木 信夫氏（中央大学大学院教授）

中心市のあり方

を 考 え る

講 演 会



—今こそ考える合併・中核市・広域連携

※いずれの会場にも参加可能です（280名・当日先着順）。

※両会場とも予約不要。時間までに直接会場へお越しください（開場 12 時 30 分）。

南足柄市会場

日時 平成 28 年 8 月 13 日（土） 13 時から 15 時

場所 南足柄市文化会館 小ホール（南足柄市関本 415-1）

講師 大杉 覚氏（首都大学東京大学院教授）



発行

（仮称）県西地域の中心市のあり方に関する 2 市協議会設置準備会（小田原市企画政策課内）

小田原市荻窪 300 番地 ☎33-1239